



Title	阪大音楽学報 第20号 投稿規程/編集後記/奥付
Author(s)	
Citation	阪大音楽学報. 2024, 20
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/98505">https://hdl.handle.net/11094/98505</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# 『阪大音楽学報』 投稿規程

## 1. 投稿資格

- ・本誌への投稿は、大阪大学大学院音楽学研究室(以下「当研究室」)において、下記のいずれかの項に該当する者とする
  - 1) 当研究室にて博士前期課程を修了した者
  - 2) 当研究室にて博士後期課程在籍中の者
  - 3) 当研究室にて博士後期課程を修了あるいは満期退学した者
  - 4) 当研究室にて博士号を取得した者
  - 5) 当研究室に関係する教員
  - 6) 当研究室が特に認める者

## 2. 投稿の種類

- ・本誌への投稿は未公開の「論文」のみとする

## 3. 書式と執筆要領

### 1) 書式について

- ・原稿はA4判とする
- 『阪大音楽学報』編集委員会の作成した最新の「書式の原則」を参考のこと(当研究室HPよりダウンロード可能)
- ・「書式の原則」については当研究室まで問合せのこと

### 2) 執筆要領

- ・論文に用いる言語は次のいずれかの方式とする
  - 1) 本文を日本語で書き、日本語以外で要旨を付す
  - 2) 本文を日本語以外の言語で書き、日本語で要旨を付す
- ・論文の分量は本文・注、および譜例・図表・図版等も含め、和文の場合は400字詰め原稿用紙30枚～50枚程度、欧文の場合は7,000ワード程度とする
- ・要旨は、和文の場合は800字以内、欧文の場合は300ワード以内とする
- ・注は後注方式で執筆のこと(編集段階で脚注方式に変換)
- ・引用楽譜等については、執筆者の責任において、著作権表示を行うこと
- ・著作権表示が必要か否かの判断、および楽譜出版社等への問合せは、執筆者本人の責任とする
- ・譜例・図表・図版および対訳等で写真製版を希望するもの(以下、譜例等)については、本文中に挿入すべき箇所を明示した上で、原稿を印刷原稿に添えて提出のこと
- ・譜例等は、指定分量に含まれるものとし、原稿内に相当文字数を示すこと
- ・日本語以外の言語を使用する際(要旨を含む)には、その言語を母語とする人物(ただし、研究者であることが望ましい)による校閲を経た上で提出することとし、同時に、校閲者の氏名を別紙『論

文投稿届』に記載すること

- ・分綴法の原則に留意し、さらに、ウムラウト、アクサン等はプリント・アウトした提出原稿に赤字で指示のこと

## 4. 論文の提出

- ・あらかじめ指定する期日までに『投稿届』を提出する
- ・以下の3点を揃えて提出のこと
  - 1) MS-Wordまたはテキスト形式のファイルを記録したCD-ROM等、電子メディアを2部  
同メディアにはラベルを貼付し、以下の事項を明記すること  
氏名  
ファイル名と中身の注記  
(例:本文、図版、要旨など)  
作成年月日  
使用しているメディア、コンピュータのOSおよびワープロソフトの種別とそのバージョン
  - 2) 上記データをプリント・アウトしたもの2部
  - 3) 『論文投稿届』1部
- ・論文提出先:『阪大音楽学報』編集事務局(大阪大学音楽学研究室内)  
※論文およびCD-ROM等は原則として返却しない

## 5. 投稿論文の採否および掲載号

- ・投稿された論文は、当研究室の教員による編集委員会を組織し審査する
- ・各論文は、編集委員または編集委員会が委嘱した学外の学術アドバイザーによる査読を経て、編集委員会において採否を決定する
- ・掲載に当たっては、修正を求めることがある
- ・大幅な修正が必要な場合は、掲載を次号以降に送ることがある
- ・掲載号および掲載の順序は当研究室の担当教員が決定する

## 6. 校正

- ・著者校正は、初校および再校の2回とする
- ・著者校正では、原則として印刷上の誤り以外の字句の修正や挿入を行えないものとする

## 次号の投稿

- ・『投稿届』を2024年7月31日、論文については2024年9月27日必着(直接持参、あるいは、書留郵便あるいは宅配便などの配達記録が確認できる方法で送付すること)

## 編集後記

音楽学にかかわるようになって40年ほど経ちますが、音楽について考えること、調べること、書くことの内実は大きく変わりました。頭の中もさることながら、実際に「音楽学」を進める手付き（物理的に本を読んだり、資料をコピーしたり、文献を探しに書庫を漁ったり、外国の古本屋で店主とやりあったりする、という行為）も根こそぎ変わりました。私としてはそういう「音楽学」に振り落とされずについていくだけで精一杯ですが、この「音楽学報」は変化の中でも果敢に発展しているように感じます。充実した一巻となりました。手際良い進行で年度内刊行を果たしてくれた吉村汐七さん、ありがとうございます。

(伊東信宏)

今年は近年稀に見る(!)スムーズな進行で刊行が叶いました。さらに、学部の卒論に基づく博士前期課程の学生の論考を掲載するという新機軸も打ち出せて嬉しい限りです。編集実務を担当してくれたコーサアシスタントの吉村さんに改めて感謝申し上げます。これから数年、研究室スタッフ激動の時期が続きます。今後ともどうぞよろしくおつきあいください。

(輪島裕介)

皆様のご協力を得て、今年度も無事に『学報』を発行することができました。今号も、多様な論文が集まる充実した一冊になりました。また『大阪日日新聞』の休刊に伴い、第11号から続いていた「関西の音と人」の再録も、今回で最後となります。論文とともに、再録記事もぜひお楽しみください。執筆者の皆様、査読を担当していただきました先生方、校正補助に入ってくださいました皆様、その他刊行にあたりご尽力いただいた関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

(吉村汐七)

---

### 阪大音楽学報 第20号

発行日：令和6(2024)年3月15日発行

発行所：大阪大学文学部・大学院人文学研究科  
音楽学研究室  
〒560-8532 豊中市待兼山町1-5  
Tel 06-6850-5124  
Fax 06-6850-5124  
<https://musicologyosaka.wordpress.com>

編集委員会：伊東信宏、輪島裕介、吉村汐七

編集補助：アーシャンポー・ウィリアム・ウォルター、  
上原智子、菊池虎太郎、佐藤馨、森谷子、  
村尾尚哉、村田クレイグ

印刷：株式会社 ケーエスアイ  
〒557-0063 大阪市西成区南津守7-15-16

©2024 大阪大学大学院人文学研究科 音楽学研究室  
不許可複製 ISSN 1348-0456

HANDAI ONGAKUGAKUHŌ vol.20  
(Journal of HANDAI Music Studies)  
Published March 2024

Publisher:  
Osaka University (=HANDAI), Musicology Division  
1-5 Machikaneyama-cho, Toyonaka-city,  
Osaka 560-8532, Japan  
Tel: +81-(0)6-6850-5124  
Fax: +81-(0)6-6850-5124  
Homepage: <https://musicologyosaka.wordpress.com>

Editors: ITO Nobuhiro, WAJIMA Yusuke, YOSHIMURA Sena  
Assistant Editors: ARCHAMBEAULT William Walter,  
UEHARA Tomoko, KIKUCHI Kotaro,  
SATO Kaoru, MORI Yoko, MURAO Naoya,  
MURATA Craig

Printer: KSI Co., Ltd.  
7-15-16 Minamitsumori Nisinari-ku,  
Osaka-city, Osaka 557-0063, Japan

©2024 Osaka University, Musicology Division  
All right reserved. ISSN 1348-0456

---